

学校教育目標	希望と愛をはぐくむ、美と活力の学校
目指す学校像	～ 常に「思考」を大切にして、「創造」と「進化」を続ける魅力ある学校 ～
重点目標	1 学力の向上 ～ 基礎学力・読解力の向上に向けて 2 生徒指導と教育相談の充実 ～ すべての活動の基盤となる生活面の安定に向けて 3 花笑み教育とコミュニティスクールの活性化 ～ スクールコミュニティの構築に向けて 4 教育環境の整備 ～ 学校事故の防止と安心・安全の確保に向けて 5 教職員の働き方改革と研修の充実 ～ 教職員の資質の向上に向けて

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価
番号	現状(●)と課題(◎)	評価項目	具体的方策(☆)	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題(◎)と改善策(☆)
1	● 現状 全国学力学習状況調査からは国語力の低迷が顕著である。数学は小学校から中学校1年生までの基礎学力の養成が強く求められる ◎ 課題 「全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学び」を達成するために「単元内個別進度学習」を軸に研究を深め、具体的に展開すること 単語の精査、語彙力アップ、文章の要約等により読み取り、思考、説明等の外化を行えるようにすること 基礎・基本内容の徹底と学び方の習得を学校と家庭の連携の下で習慣化を図ること	学習指導の基盤づくり	【安心して学習できる環境の整備】 ☆ 学級活動における「話し合い活動」の理解と実践、「協働的な学び」への応用として各教科で実践 ～「相互評価」のあり方を含む ～コミュニケーション力アップを含む	①「協働的な学び」として位置付けた話し合い活動を、学級活動の時間に最低3本実施したか ②教科で「話し合い活動」を導入し指導計画に位置付けたか ③端末の共有ソフトを活用したか ○ 話し合い活動の取り組みについてのアンケートを創出し検証する	①本校実施の「悉皆研修」に備え研究推進委員会を定例化したことで「話し合い活動」の回数を確保(A) ②今年度は計画の実施、来年度指導計画に位置付け(A) ③端末は必要に応じて適切に活用(B) ○ 全教職員が肯定的回答(A)	A	◎「話し合い活動」を活かした「協働的な学び」の発展、「単元内個別進度学習」との一体的な展開 ☆年度当初から生徒指導・学級経営・教科経営を意識した「話し合い活動」の継続的研究・実践
		学習指導の充実	【「習得」の徹底による「読解力及び基礎学力」の向上】 ☆ テスト前後の学習意識の向上 ☆ 「個別最適な学び」を具現化する授業の実践 ☆ 「読書」時間の確保 ☆ 家庭学習の奨励と内容の強化・充実	①「チャンスタイム」を設定、結果の検証を行ったか ②やり直しテストを実施、結果の検証を行ったか ③「単元内個別進度学習」を指導計画に位置付けたか ④家庭学習定着に向け取り組んだか ⑤端末のドリル教材を活用したか ○ 学習面の学校評価＝生徒80%、保護者80%、教職員80%の肯定的回答	①チャンスタイム実施、検証を継続(A) ②やり直しテスト実施、検証を継続(A) ③「単元内自由進度学習」一部単元で実施、継続研究予定(B) ④家庭学習定着を働きかけも効果は限定的(B) ⑤ドリル教材を一部教科で活用一部教科のみ実施(B) ○ 生徒・教職員は80%超(B)	B	◎基礎学力アップ策のテスト前後及び授業時における具体策検討と実践 ☆チャンスタイムとやり直しテストの改良を加えての継続的な実施、「単元内自由進度学習」の導入による生徒の学習スピードと習熟の度合いに応じた授業展開
2	● 現状 生徒数186名、明るく活動的な生徒が多く学校に来て教室で学習しづらい生徒、学校に足が向かない生徒等は学級に存在、要指導の問題行動も散見される等、全国と同様の問題を抱える学校 ◎ 課題 学級・学校の集団の規模が小さくとも、将来の日本を支える人材として「必要な資質は他の地域と変わらない」という意識を醸成すること 「城南カフェ」において個々の生徒への対応として多様な学習スタイルを模索・具現化すること	生徒指導の充実	【安心・安全の基盤～生活面の指導】 ☆ 「生徒指導部会」の充実 ☆ 週越え案件の絶無 ☆ 「校則検討委員会」の実施 ☆ 学級経営に関わるOJTと学期ごとの達成度の検証	①生徒指導委員会は中心の立場で活動がしたか ②学級経営の状況を毎学年会と学期末に学年職員で検証を行ったか ③スピード感をもって対応ができた ○ 生活面学校評価＝生徒80%、保護者80%、教職員80%の肯定的回答	①生徒指導委員会は主任主導の下で毎週開催(A) ②学級経営状況を学年会と必要に応じた主任主導下での検証・対応実施(A) ③「週越え案件はなし」を合言葉にスピード感をもった生徒指導対応を実施(A) ○ 生徒は80%超、教職員80%弱(B)	B	◎生徒指導案件の扱いについての温度差、日常生活指導の学校評価結果に見られる保護者評価の学年間の差 ☆学年間の指導の温度差の確認、日常生活に関わって保護者への伝達手段と内容の工夫
		教育相談の充実	【全ての子どもを取り残さない指導】 ☆ 「城南カフェ」の整備 ☆ 「教育相談部会」の充実 ☆ 迅速な情報共有 ☆ 関係機関との連携強化 ☆ 学級経営に関わる学期ごとの検証	①教育相談部会は中心・指導的な立場で活動ができたか ②学級の要相談案件に継続的に取り組んだか ③スピード感をもって対応したか ○ 生活面学校評価＝生徒80%、保護者80%、教職員80%の肯定的回答	①教育相談部会は主任主導の下で火曜に開催(A) ②学年主任と教育相談担当の下で要相談案件を早期発見・対応を励行(A) ③計画的・長期的視点をもったスピード感ある教育相談活動を実施(A) ○ 生徒・教職員・保護者80%超(B)	A	◎城南カフェ(Solaルーム)運営の評価と発展的な使用、不登校への対応のあり方について教職員の研修 ☆学校カウンセリングについての校内研修、城南カフェ運営について教育相談部会での検討
3	● 現状 「花笑み教育」2年目となる。継続的に人事配置が行われ、PTAや自治会、青少年育成市民会議等の協力を得ながらの展開に希望がある ◎ 課題 「花笑み教育」の地域住民・保護者のニーズを踏まえた具体的な内容を検討すること、併せて持続可能なものに仕上げること 学校運営協議会に生徒も参加させ、理想の学校像や地域との関わり方を熟慮で取り上げること ホームページの積極的活用を図ること	花笑み教育に関わる開かれた学校づくり	【花笑み教育の継続と充実】 ☆ 小学校行事へのボランティア参加を含む三校連携行事の協体制強化 ☆ 小学校との学習連携強化と義務教育の出口として学習指導強化	①ボランティア活動への参加者を確保できたか ②引き渡し訓練を合同で行えたか ③小・中連携教員の活動集約を行えたか ④美園北小と関わりを深めたか ○ 「花笑み教育」のアンケート調査で保護者の80%、地域60%の肯定的回答	①ボランティア募集団体に来校・説明いただき人員確保(A) ②5月に合同開催(A) ③国・数4名を派遣、集約は2月予定(B) ④制服紹介・つばみの日に連携強化(A) ○ 花笑みアンケート2月実施予定(B)	A	◎「花笑み教育」の目的と内容の精査及び年間指導計画への年度当初の確実な位置づけ ☆「花笑み教育」全体計画の再度の策定と見直しをもった方策の位置づけ
		コミュニティスクールの活性化	【保護者・地域への情報発信】 ☆ HPのリニューアルとシステム化 ☆ 学校運営協議会のあり方の検討 ☆ 三校のPTAとの連携強化 ☆ 民生委員連絡会の開催 ☆ 地域行事へのボランティア参加と地域人材の活用	①地域・保護者対象の給食試食会・授業参観を実施したか ②学校運営協議会に生徒が参加したか ③PTAと協力して取り組みを工夫したか ④民生委員連絡会を開催したか ⑤三校校長会を定例開催したか ⑥HPをリニューアルしたか ○ 「学校理解」のアンケート調査で保護者の80%、地域60%の肯定的回答	①給食試食会未実施(新年度予定)、授業公開も不十分(C) ②学校運営協議会生徒参加2回、事前の意見聴取1回(A) ③ゆるやかなPTAの連合体結成をお願い(B) ④未実施(新年度予定)(C) ⑤毎月開催(A) ⑥改訂は困難、ページを工夫(B) ○ 保護者80%超、地域未実施(B)	B	◎学校運営協議会を構成する地域、PTA、生徒会の役割不明瞭、民生委員・児童委員会の不開催 ☆熟議内容、特に「花笑み教育」に関わっての題の設定、PTA対象・地域(自治会)対象の給食試食会の開催、民生委員・児童委員会の2回開催
4	● 現状 施設・設備の安全点検を行い、不良個所の発見と迅速な修繕にあたっては ◎ 課題 教職員の安全に対する意識・緊張感を常に持たせ、学校事故の根絶を図ること 生徒のSNS利用についての安全意識を高め、生じた事案には迅速丁寧に対応すること	安全に関する教職員の意識向上と実践	【教職員事故の防止】 ☆ 個人情報管理の徹底 ☆ 諸会計事務・監査システムの厳正化 ☆ 余裕ある行動による交通事故防止 ☆ 非遵行為への注意意識の向上 ☆ 教職員・生徒の連絡体制整備	①個人情報管理の定例管理チェック・紙媒体の格納点検を励行したか ②会計監査を学期末実施したか ③職員会議で体罰・暴言等の事故防止研修を実施したか ④日常的に信用失墜行為の根絶と事故防止のための徹底が図れていたか ⑤新たな連絡システムの検討をしたか	①電子媒体個人情報管理を徹底、紙媒体格納点検は校長が励行(A) ②会計監査半期1回、部活監査はこれから(B) ③事故防止について毎職員会議で研修講話(A) ④事故防止について折に触れ話(A) ⑤スクリーンを採用、今後新たな活用を採用予定(B)	A	◎電子媒体個人情報管理の他校ノウハウの取得、事故防止と事故対応についての危機意識の涵養 ☆電子媒体による個人情報管理について各所に働きかけて徹底・方法変更を企図、スクリーンの集金等の機能を活用
		生徒を取り巻く環境の安心・安全の確保	【生徒事故の未然防止と確実な対応】 ☆ 安全点検を定期的実施し、併せて管理訪問型の点検を定例化する ☆ スクールロイヤーや情報教育堪能者による教職員研修と現場での活用 ☆ 学級・学年・学校によるいじめ防止	①月に1回の安全点検と学期に1回の管理訪問型の点検を行えたか ②警察やスクールロイヤーを招聘してSNS安全教室を実施したか ③突発的問題発生時にも直ちに対応したか ④多文化共生を意識した「いじめ防止」が学校を挙げて周知・徹底できたか	①月に1回の安全点検は安全担当の下で励行管理訪問型点検は半期に1回(B) ②警察を招聘したSNS等安全教室を実施(B) ③突発的問題発生時には迅速に組織的に対応(A) ④多文化共生を意識して学校だよりを発行、生徒会中心に呼びかけ実施(A)	A	◎配当予算の関係による修繕個所の制限、スクールロイヤー・警察等による生の体験等の紹介、事故防止と事故対応に関する失敗体験の共有 ☆安全確保の優先順位に基づく修繕、安全に関する失敗体験共有会の組織
5	● 現状 一部教科は他校兼務の教職員、多くは2名配置であり、教職経験年数が浅い教員が多い ◎ 課題 「全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学び」の研究の継続的取り組みと、さいたま市DXやSSSPとの整合を図ること	研究計画と自己のキャリアアップ計画に沿った資質向上の取り組み	【教師力アップ】 ☆ 上記の諸活動の実践とOJT ☆ キャリアアップ計画に沿い特別活動、生徒指導、教育相談への知見を深める研修 ☆ 次期指導要領と「探究的学び」を意識した授業研究 ☆ 小学校教育の理解に関わる研修	①学校課題研究「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」に関わる「新たな授業スタイル」を組織的・計画的に実行したか ②教育課程説明会、市教研を活かしたスキルアップが行えたか ③各学級で「話し合い活動」の研究を深めたか ④小・中連携を意識した自己研修が行えたか	①「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」を考慮した「単元内個別進度学習」を研究主任を中心に展開(B) ②校内外の研修参加率が60～70%と不十分(B) ③本校実施「悉皆研修」に合わせ学級活動の知見は深化(A) ④小・中連携による研修会を夏に実施、小学校への知見は高まるも、自己研修に至る素地整備は不十分(B)	B	◎10年後を見据えた必要感のある研修会の組織・運営(含・意識改革)、新聞・読書を重視しようとする意識の涵養、他校種や真の小・中連携を目指して活動する教職員の養成 ☆「花笑み教育」の連携強化(含・目的意識の向上と研修への意欲改革)、次期指導要領改訂を見込んだ現行指導要領の復習と新情報へのアクセス

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学校運営協議会による評価

実施日令和8年2月24日

学校運営協議会からの意見・要望・評価等

学習指導の充実についてより広範な周知があってもよいのではないかと
 → 危機感の共有

日常生活における安全・安心の担保にあたっては様子が見えづらく

皆が考えている以上に不登校の状況が深刻であることがわかったので引き続き指導にあたって欲しい

当該小学校・中学校への進学者が増えたことは喜ばしい

引き続き「学校教育の中身」で勝負できるような学校になることを期待し、その点に魅かれて進学者が増えることを期待する

学校事故の根絶に向けて努力していることがわかった
 引き続き、気を引き締めて臨めるとよい

人事にあたって、地域・保護者にとっても必要な人材を確保できるように努力をお願いしたい